

そよかぜ診療所研修を終えて

夏真っ盛りの 8 月、そよかぜ診療所で研修させていただきました。医学生時代の実習で地域研修の機会があったものの、殆ど“お客さま”のような見学が多く、1ヶ月泊まり込みの研修も初めてと、不安と楽しみが混ざりながらのスタートでした。そんな中出迎えてくださった岡本秀樹先生、静子先生を始めとする診療所スタッフの方々はとても温かい雰囲気、心配は全くの杞憂でした。

私が普段働く大学病院では、様々な検査や治療が細分化されており、一人一人の患者さんとゆっくり話す時間や、家での様子を知る機会は決して多くありません。対して、診療所では、採血やエコー検査、点滴などの間に沢山お話させていただくことができました。病院一患者という単純な関係ではなく、地域の一部に溶け込んでいるように感じました。患者さんのお宅に直接伺う訪問診療も同様で、病院の中では分からない暮らしの中での問題点もありました。このような経験は、今後、病院から地域、家庭へと連続した医療を提供できるようにする上で、大変貴重なものとなりました。

そして、医療以外にも沢山の経験をすることができました。運よく花火大会を楽しめたり、空手教室のバーベキューに参加させていただいたり、はたまた川辺で夏の夕暮れに耳を傾けたりと、これぞ夏！という生活を満喫することができました。訪問診療時の灼熱の車内も良い思い出になりました。

最後に、快く迎えてくださったスタッフの皆さま、岡本家の皆さまには大変お世話になりました。毎日沢山お話することができ、とても楽しく過ごすことができました。あっという間の 1ヶ月でしたが、それ以上に長く過ごしたように感じます。本当にありがとうございました。